



# 歌 秋 冬

平均年齢64歳、25名の演歌ヴォーカルユニット「博多屋・本店」のメジャー第1弾『博多川恋歌』(作詩・曲:たきのえいじ) / 編曲:石倉重信



「博多屋・本店」。とんこつラーメ  
ン屋でも、めんたいこ屋さんでもな  
く、私が考え、昨年春に活動を開  
始した演歌ヴォーカルユニットである。  
前作は19名。そして今回新たに  
オーディションを行ない6名が加わ  
り、25名の大所帯になった。福岡  
県以外からも加わって頂き、気持

ちを新たにパワーアップしての出発  
である。

以前にも、この連載で紹介した  
ように、元看護婦、元ダンブの運転  
手(女性)、元小学校の先生、元会  
計士、元町会議員、元観光パスガ  
イド、現農業者、現食堂のおかみ  
さんと、さまざまな人達の集まり  
で、また、それぞれの仕事を続け  
ながら歌手もやつていくというスタン  
スに変わりなく、その情熱というか  
根性が、昨年、九州朝日放送のワ  
イドショーや色々なラジオ番組、西  
日本新聞の一面や読売新聞等々で  
取り上げられ話題になった。こう  
した土台が出来、市民権を得たと  
いう事で、今回第2弾となるCDを  
4月4日、メロディーレコード、クラ  
ウン徳間ミュージック販売で発売し  
た。この作品『博多川恋歌』で、い  
よいよメジャー流通での販売となる。  
平均年齢62歳。女性20人、男性

5人。

私は以前から、老後の過ごし方  
を考えていた。私の事ではなく、  
一般論として。ただ生きているとい  
う生命条件だけでなく、やり甲斐、  
生き甲斐をもつて生きる事が問わ  
れる時代。何をやるべきか? そ  
れが歌であれば……どんな風に、と。

今回、前作を越えて、2万、3  
万枚と売れたら、全九州でのコンサ  
ートを……と思っている。そして更に  
実績を重ね、実はボランティア活動  
を、とも思っている。勿論、今でも  
個々の単位では関わっているけれど、  
全員で共にやれたら最高である。  
ともかく、個人と団体ではパワーが  
違う。老人福祉施設、障害者の施  
設、そして養護学校。歌の力を借  
りてやれる事がたくさんある。心  
だけでは駄目。行動や資金がなく  
てはならない。

ともかく、この様な大きなグルー  
プは演歌系にはなく、画期的な事  
と思っている。

レコーディングも大小入り交えて  
のキャンペーンも、各自が自分の事  
と思つて取り組まなくては、25人の  
方向が崩れてしまう。年齢からく  
る体調管理、練習、そしてコミュニ  
ケーション。メンバー全員が日々顔

を合わす訳じゃないので、この基本  
がすべてである。

ソロのパートから徐々に全員のパ  
ートが加わっていく。あの膨らむ声  
量がたまにならなくいい。1人の声で  
は引き出せない臨場感がある。声  
量もさることながら、気持ちの重  
なりとうねり。とにかく胸に刺さ  
ってくる。その劇的なクライマックス  
を描きながら、実は爽やかなのだ。  
清々しい情感だけがレモンのように  
絞られ、耳に残るのである。

トラックダウンの時、25人の歌声  
を整理するのだが、そしてそれを  
仕上げて、こうして聴き直すと、  
また我ながら感動する。この歌が  
全国に広がることを祈りながら、  
また今日も聴いている。



たきのえいじ

本名・滝野英治

1949年8月31日、愛媛県大洲市生  
まれ。作詩・作曲の両分野で活躍中。  
演歌歌謡曲にあつては主に作詞家とし  
ての活動が目立ち、五代夏子、田川  
寿美、石原詢子他に数多くの作品を  
提供している。